

舞踊学の新しい方法を探る —舞踊教育における知を巡って—

大貫 秀 明

1. はじめに

この機会に其れとなく課された事項が二点ほどあった。それらは、まずラバンセンターにおける最近の舞踊研究の状況を報告すること。そしていま一点は、その内容から敷衍して可能なかぎり当シンポジウムの標題に“漕ぎ寄る”こと、であった。

その要請になんとか応えようと考えた末、少しは整合性を保てそうに思われた内容は舞踊学のうちの舞踊教育 (Dance in Education)¹⁾に係わると思われ、ついては上記のような副題 (演者題) を設けた次第である。海外の動向のいくつかを概観しながら、最終的にはなんらかのかたちでここ日本の斯界にも寄与できる内容であることを願っての些細な考察である。なお、紙幅の関係上ここではシンポジウム当日にお話しさせて戴いたうちの一部は割愛せざるをえないが、骨子からの逸脱はないものと確信している。

2. ラバンセンター：基幹科目の変容

舞踊教育者の養成とノーテーション学習の場としてつとに知られてきていたラバンセンターも現在では総合的な舞踊教育機関へと変貌を遂げつつある。その動向に連動するかのようになり、同センターが設置するほとんどの課程に組み込まれる基幹科目にも変化が見られる。具体的には、動きの分類とそれを括るノーテーション (Labanotation) を核に踊る・創る・観るを考察し、また実践とする『Movement Study』から、より大きな学体系のもとで舞踊を捉えようとする『Choreology』 (=Study of Dance) への変化である (文末資料：図-1の(i), (ii), (iii)参照)。確かに『Movement Study』に固執しては舞踊を“アログラフィク” (N. グッドマン)²⁾なものとして捉えがちであろうし、舞踊の表象的側面の考察には不備をきたす。また、「動き」をあくまでも舞踊の主要媒体とするには昨今目にする作品の多くは、その考えに対する納得をわれわれには与えてくれない (文末資料：図-1, (iii)の(7), (17), (18), (19)に注目して戴きたい——これらがかつての同センターの基幹科目の主内容であった)。こうしたラバンセンターにおける変化には、あらためてわれわれに舞踊現象の多様性、すなわち舞踊にまつわる多様な知の存在をいみじくも認めさせる³⁾。しかし、周知のとおりアメリカでの舞踊研究の世界ではとうに経験済みのことであり、注目すべきはラバンセンターにおける今後のその内容の消化・発展の仕

方である。

3. 舞踊教育における知

3.1 アメリカの舞踊教育界の動向：認識学習へのシフト

舞踊の多様性を懐深く抱え込んできていたアメリカ舞踊界ではあるが、そのうちの教育の世界では80年代初頭以来のかの地の教育改革の波を受け、より実質的な教育成果を求める機運が高まるとともに或る変化が緩やかではあるが顕現してきている。知識をベースにした教育、いわゆる認識学習への傾斜というのもそのひとつである。

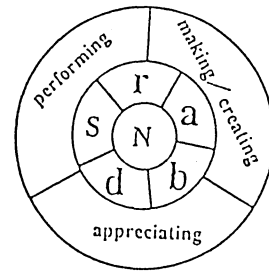
S. フォーティン⁴⁾は、Conceptual Content Knowledge⁵⁾ならびに Technical Content Knowledge⁶⁾の教授の必要性を舞踊教員、殊に実技担当教員に説いている。その内容のうち“卑近な”一例を引いてみよう。かりにグラムの「コンラクション/リリース」を扱っているとすると、その目的は脊椎の周囲を取り囲む主たる筋、すなわち広背筋・大円筋・外腹斜筋・僧帽筋を鍛えることにより、脊椎ならびに上体全体が容易に支えられ、それによって下肢の動きのレンジが広がり、また、ボディー・センターにもよく気づくようになる、といった解説を施すことの必要性を説いている (C-C-K関連)。また、正確な師範と的確な被教育者の実践に対してのコメント (言説) の供与も不可欠であるとしている (T-C-K関連)。こうした教育内容ならびに方法の展開の背景には、舞踊教育というものがどうしても「皮相的な身体経験」に終始しがちであり、またその点を殊に他教科関係者から批判されがちであることからの反省と推察できる。

元来、アメリカの舞踊教育界はプロの世界との絆が強く、プロの世界での事象が教育の場に直ちに反映されてくる、いわゆるトップダウン型である。しかし、そのプロの世界が“Anything goes”的な雰囲気にも包まれ、また、上述の教育改革の圧力が身近に迫ったことがフォーティンの主張にもみられる努めて実質・直截的な知識の教授といった動向となって現れているのであろう。

3.2 日本の舞踊教育界を探る：出来事から経験へ

限定的ではあるが海外二つの国の舞踊教育界の、その異質なトレンドに注目しながら日本の舞踊教育界を眺めてみると、体育の傘下におさまりながら、その体育自体が度重なる存亡の危機 (大

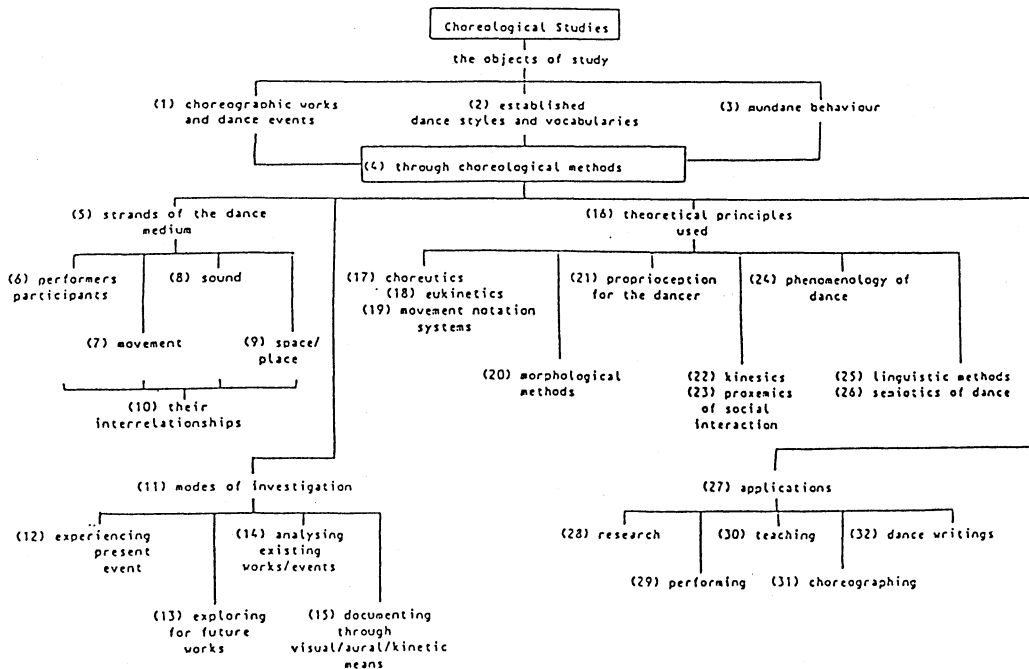
Action	gesture, transference, travel, turn, twist, contract, extend, jump, balance
Body	Areas: chest, pelvis, trunk, head Limbs: arms, legs, upper arms, lower arms, hands, feet, neck Joints: shoulder, elbow, wrist, fingers, hip, knee, ankle, toes, vertebra(e)
Dynamics(Effort)	•Weight: light — firm •Time: sustain — sudden •Space: flexible — direct •Flow: free(unrestrained) — bound(restrained)
Space	shape, size, level, direction, floor pattern, focus, gather, scatter
Relationship	same as, opposite to, support, touch, near
N o t a t i o n (Labanotation)	



N = Notation (Labanotation)
a = Action
b = Body
d = Dynamics (Effort)
s = Space
r = Relationship

(i) Movement の分類

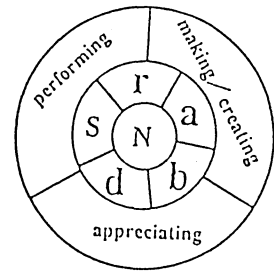
(ii) Movement Study の構成
(舞踊を応用対象とした場合)



(iii) コレオロジー (Choreology) の体系
V.Preston-Dunlop '90

図-1 ラバンセンターにおける基幹科目の変容：Movement StudyからChoreologyへ

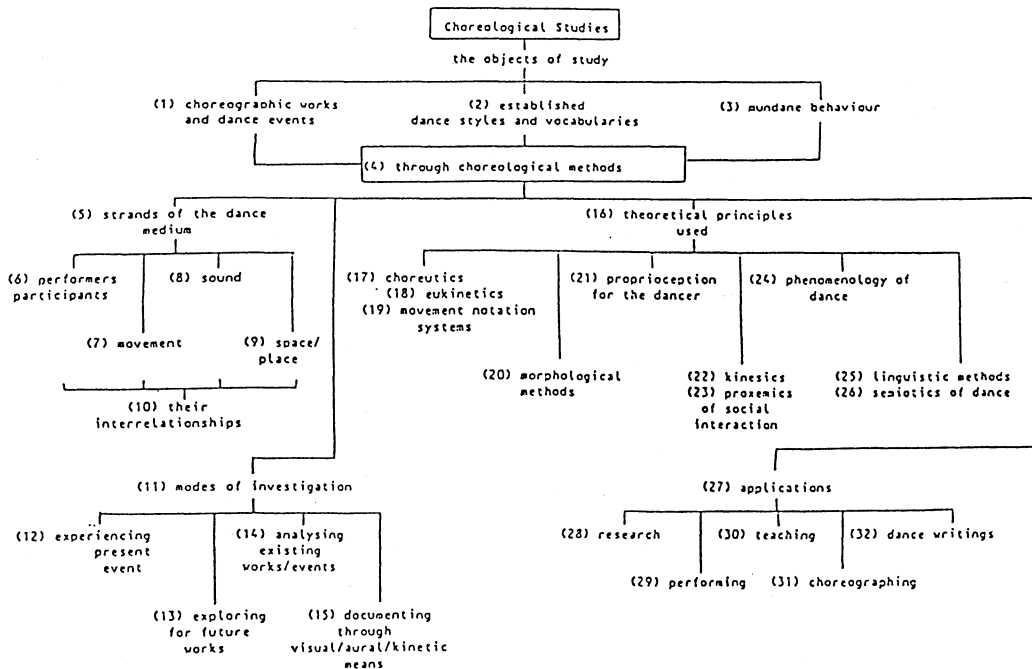
Action	gesture, transference, travel, turn, twist, contract, extend, jump, balance
Body	Areas: chest, pelvis, trunk, head Limbs: arms, legs, upper arms, lower arms, hands, feet, neck Joints: shoulder, elbow, wrist, fingers, hip, knee, ankle, toes, vertebra(e)
Dynamics(Effort)	• Weight: light — firm • Time: sustain — sudden • Space: flexible — direct • Flow: free(unrestrained) — bound(restrained)
Space	shape, size, level, direction, floor pattern, focus, gather, scatter
Relationship	same as, opposite to, support, touch, near
N o t a t i o n (Labanotation)	



N = Notation (Labanotation)
a = Action
b = Body
d = Dynamics (Effort)
s = Space
r = Relationship

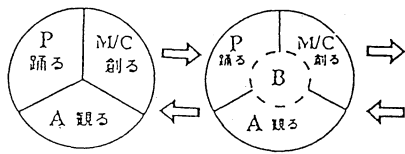
(i) Movement の分類

(ii) Movement Study の構成
(舞踊を応用対象とした場合)



(iii) コレオロジー (Choreology) の体系
V. Preston-Dunlop '90

図-1 ラバンセンターにおける基幹科目の変容：Movement StudyからChoreologyへ



A = appreciating B = Body
 M/C = making/creating
 P = performing

目的	手段/方法 (例)
【からだを知る】 (身体的事象の知)	キネシオロジー (バイメカ) 解剖学/生理学(舞踊身体を基礎とした基・骨格調整の理解)
【からだを聴く】 個人的経験 (感じる) 個人的観察 (気づく) …… (個人的な知) ……	ソマティック・プラクティス "internal kinetic dialog" ex. ・ボールとからだの触れ合い
【からだを放つ】 (動きのなかで)	経験としての即興 ・エフォート (elements) + Body parts ・Motif Writing の活用

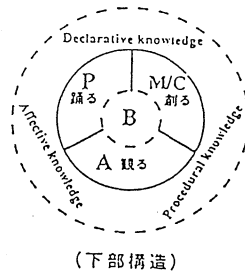


図-2 舞踊教育の基本構造とその「下部構造」